

令和元年度国立特別支援教育総合研究所セミナー

テーマ

## インクルーシブ教育システムの推進

期 日 令和2年2月21日（金）・22日（土）

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター



独立行政法人

国立特別支援教育総合研究所

National Institute of Special Needs Education (NISE)





# 目 次

## セミナー趣旨----- 1

国立特別支援教育総合研究所セミナー実行委員会 委員長 横倉 久

### 【1日目】

## 開会式----- 2

主催者挨拶

国立特別支援教育総合研究所 理事長 宍戸 和成

## 講演 1 ----- 2

特別支援教育に関する最新動向

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 課長 俵 幸嗣 氏

## 講演 2 ----- 2

学習評価の基本的な考え方

文部科学省初等中等教育局視学官

(併) 特別支援教育課特別支援教育調査官 青木 隆一 氏

## パネルディスカッション----- 3

各学校における特別な配慮を必要とする子供たちの学習評価の現状と課題  
～カリキュラム・マネジメントの視点から～

コーディネーター 横倉 久 (国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部)

パネラー 山中 ともえ氏 (調布市立飛田給小学校長)

高岡 麻美 氏 (府中市立府中第三中学校長)

朝日 滋也 氏 (東京都立大塚ろう学校長)

武富 博文 氏 (神戸親和女子大学 准教授)

### 【2日目】

## 研究概要紹介・研究成果報告----- 4

研究概要紹介

我が国の特別支援教育施策への寄与及び教育現場の課題解決に向けた研究活動について  
研究企画部 棟方 哲弥

研究成果報告

高等学校及び特別支援学校高等部を対象とした特別支援教育に係る教育課程の編成・実施状況に関する調査

研修事業部 若林 上総

情報・支援部 北川 貴章

インクルーシブ教育システムを推進し、主体的な取組を支援するための「インクル  
COMPASS (試案)」の提案

インクルーシブ教育システム推進センター 星 祐子

言語障害のある中学生の指導・支援の充実に関する研究

情報・支援部 滑川 典宏

ポスター発表等各種展示の概要----- 7

【ポスター発表】

【展示】

- ・「インクルDB」活用体験コーナー
- ・教育支援機器等展示室（iライブラリー）所蔵の教育支援機器等

地域実践研究成果報告----- 8

司会	横尾 俊	(国立特別支援教育総合研究所 インクルーシブ教育システム推進センター)
報告者	若月 雅子 氏 三好 辰昌 氏 和久田 欣慈 氏 大石 恵理 氏	(埼玉県教育委員会 指導主事) (埼玉県立騎西特別支援学校 主幹教諭) (静岡県教育委員会 指導班長) (静岡県立藤枝特別支援学校 教諭)
アドバイザー	原 広治 氏	(島根大学教授：地域実践研究アドバイザー)



※本セミナーの一部資料につきましては、当研究所ホームページ  
(研究所セミナーのページ)に掲載しております。

URL : [https://www.nise.go.jp/nc/training\\_seminar/special\\_seminar/r1](https://www.nise.go.jp/nc/training_seminar/special_seminar/r1)



## セミナー趣旨

# インクルーシブ教育システムの推進

### 趣 旨

国立特別支援教育総合研究所（NISE）では、研究活動等の成果普及、特別支援教育に関する理解啓発、教育関係者や関係機関との情報共有を図るため、毎年、本セミナーを開催しています。

本研究所は、第4期中期目標期間（平成28年度～令和2年度）においては、国や地方公共団体等と連携・協力しつつ、特別支援教育を取り巻く国内外の情勢の変化も踏まえた国の政策課題や教育現場の課題に柔軟かつ迅速に対応する業務運営を行い、もって障害のある子供一人一人の教育的ニーズに対応した教育を実現し、インクルーシブ教育システムの構築に向けて貢献することを目指しています。今年度のセミナーでは、初日に特別支援教育に関する最新動向についての講演や学習評価の基本的な考え方に関する講演、カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえた学習評価に関するパネルディスカッションを行います。また、研究所における研究概要や研究成果について2日目に紹介いたします。

本セミナーのテーマに掲げた「インクルーシブ教育システムの推進」とは、障害のある子供が、自立と社会参加に向け、できる限り身近な地域で同世代の子供と共に学ぶ中で持てる力を最大限伸ばすことができる教育であるとともに、障害の無い子供も含めた全ての子供が、仲間と出会い触れ合う中で、多様な在り方を相互に認め合い、「他者とのかかわる力」、「様々な価値観の中で問題解決を図る力」を培う教育の実現を推進していくことを意味します。インクルーシブ教育システムを推進する上で、全ての子供が授業内容を分かり学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、「生きる力」を身に付けていけるかどうか、これが最も重要で本質的な視点であり、教育現場においては一層の充実が求められています。

本セミナーが、参加された皆様にとって、特別支援教育の推進のための実り多い機会となることを期待しております。

国立特別支援教育総合研究所セミナー実行委員会  
委員長 横倉 久

## 【1日目】

### 開会式 (13:00~13:15)

#### 主催者挨拶

宍戸 和成 (国立特別支援教育総合研究所 理事長)

### 講演 1 (13:15~13:45)

#### 「特別支援教育に関する最新動向」

#### 講 師

俵 幸嗣 氏 (文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 課長)

### 講演 2 (13:45~14:45)

#### 「学習評価の基本的な考え方」

#### 講 師

青木 隆一 氏 (文部科学省初等中等教育局視学官  
(併) 特別支援教育課特別支援教育調査官)



## パネルディスカッション（15:00～17:00）

「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹であり、教育課程に基づいて組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っています。さらに新学習指導要領で重視している「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して、各教科等における資質・能力を確実に育成することが求められています。例えば、多様な学びの場面に在籍する障害のある児童生徒への各教科等の指導において、小・中・高等学校学習指導要領には、児童生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うことが明記され、施される手立てや配慮の成果や児童生徒の学びの状況を適切に把握することが重要になります。

このようなことから、新学習指導要領が目指す教育活動の展開において、学習評価は要であることが分かります。本セッションでは、講演の内容も踏まえ、新学習指導要領が目指すカリキュラム・マネジメントや授業改善の視点から、多様な学びの場で学ぶ障害のある児童生徒への学習評価の現状や課題等についてパネルディスカッションを行います。

### 各学校における特別な配慮を必要とする子供たちの学習評価の現状と課題 ～カリキュラム・マネジメントの視点から～

コーディネーター	横倉 久	(国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部)
パネラー	山中 ともえ 氏	(調布市立飛田給小学校長)
	高岡 麻美 氏	(府中市立府中第三中学校長)
	朝日 滋也 氏	(東京都立大塚ろう学校長)
	武富 博文 氏	(神戸親和女子大学 准教授)

## 【2日目】

### 研究概要紹介・研究成果報告（9:30～12:00）

本セッションでは、本研究所が取り組んでいる研究概要について紹介いたします。また、基幹研究の中から、3つの研究課題の研究成果について報告いたします。

#### 研究概要紹介

我が国の特別支援教育施策への寄与及び教育現場の課題解決に向けた研究活動について  
研究企画部 棟方 哲弥

研究所は、我が国唯一の特別支援教育のナショナルセンターとして、障害のある子供一人一人の教育的ニーズに対応した教育を実現するために、国の政策課題や教育現場等の喫緊の課題等に対応した研究活動に取り組んでいます。41名の常勤職員が、障害種別によらない横断的な研究に取り組む2つのチーム、障害種別等の10の研究班、そして、地域が直面する課題の解決を行う4つの地域実践研究チームを構成し、研究を機動的に進めています。横断的な研究は研究期間を5年として2課題を実施、障害種別の研究は、原則2年間で成果を還元できるように取り組んでいます。そのほか、全国調査、予備的研究、研究班活動による基礎的研究活動を平行して進めています。研究の成果は、有識者による評価を受けて公表されます。具体的には、研究の内容を詳細に記述した報告書、それをポンチ絵と簡潔にまとめた研究成果報告書サマリー、多忙な現場においても研究成果のポイントが分かりやすく書かれたリーフレットを作成し、さらに、読みやすいガイドブックを作成するよう努めています。

これらは研究所のWebサイトでご覧頂けます。

今回は、成果報告会で報告される3研究以外の最新の研究成果と現在実施中の研究課題を中心に紹介します。

## 研究成果報告

### 高等学校及び特別支援学校高等部を対象とした特別支援教育に係る教育課程の編成・実施状況に関する調査

研修事業部 若林 上総  
情報・支援部 北川 貴章

平成 30 年 3 月の高等学校学習指導要領公示、平成 31 年 2 月の特別支援学校高等部学習指導要領公示に伴い、高等学校・特別支援学校高等部においては、令和 4 年度から年次進行で実施されます。これに先がけて、本研究所教育課程研究チームでは、各学校の教育課程の編成、実施に関する状況を把握するために、「特別支援教育における教育課程に関する総合的研究」を行っております。

今回は、この研究の一環として、高等学校及び特別支援学校高等部における特別支援教育に係る教育課程の編成・実施に関する実態把握を目的とした調査を実施いたしました。高等学校を対象とした調査では、学習指導要領解説に新たに記載された事項として、障害のある生徒などへの指導のうち、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の状況、高等学校における通級による指導の概況などを報告します。特別支援学校高等部を対象とした調査では、「準ずる教育課程」、「知的障害特別支援学校の教科を中心として編成した教育課程」、「自立活動を主とする教育課程」それぞれの編成及びカリキュラム・マネジメントの概況、自立活動の指導と改善に向けた取組などを報告します。

### インクルーシブ教育システムを推進し、主体的な取組を支援するための「インクル COMPASS (試案)」の提案

インクルーシブ教育システム推進センター 星 祐子

インクルーシブ教育システム推進のためには、各地域や園・学校の取組の状況を把握し、今後の見通しを持つことが必要になってきます。そこで、「我が国におけるインクルーシブ教育システム構築に関する総合的研究」チームでは、平成 28 年度に、各教育委員会や園・学校におけるインクルーシブ教育システム構築の現状と課題について全国調査を実施しました。そして、調査結果を踏まえ、各機関がインクルーシブ教育システム構築の現状や課題を把握して、次の取組を見出すための手掛かりを得るツールである「インクル COMPASS」の作成に取りかかりました。インクル COMPASS は、インクルーシブ教育システム構築の進捗状況について、他の園や学校の取組と比較をするためのものではなく、方向性を示す観点として、それぞれの園や学校の取組を推進する際や、これまでの取組を振り返る際になどに活用していただきたいと考えています。

今年度においては、インクル COMPASS (試案) を研究協力機関である 3 地域 15 機関(園、小・中学校、高等学校、特別支援学校) に活用いただき、各園や学校における強みや課題

を踏まえ、重点的に取り組まれた実践事例を収集しています。

セミナーにご参加の皆様は、「インクル COMPASS（試案）」をご覧いただき、COMPASS の観点や活用についてご意見をいただきたいと考えています。

## 言語障害のある中学生の指導・支援の充実に関する研究

情報・支援部 滑川 典宏

平成 30 年 4 月より高等学校における通級による指導が開始されました。言語障害教育において、中学校のことばの教室（言語障害特別支援学級及び言語障害通級指導教室を以下、「ことばの教室」と示す）の設置が進まない現状もあり、今後、切れ目のない連続した学びを実現するために、言語障害のある中学生のニーズに合った指導・支援の内容及び体制の充実は、喫緊の課題となっています。

そこで、この研究では①ことばの教室に通っている言語障害のある中学生の実態を明らかにすること、②言語障害のある中学生の指導・支援内容及び通いやすい体制について明らかにすることを目的としました。①では、全国調査や言語障害のある中学生と小学 6 年生からインタビュー調査を実施し、言語障害のある中学生の現状と課題、ニーズについて整理しました。②では、研究協力機関と協働して、地域の特徴に応じた言語障害のある中学生の指導・支援及び体制等のあり方について意見交換会等を行い明らかにしました。

本報告では、研究成果を踏まえ、言語障害のある中学生のニーズに応じた指導・支援や地域の特徴に応じたことばの教室の在り方について提言いたします。

## ポスター発表等各種展示（13:00～14:00）

### <趣旨>

本研究所の障害別研究の成果発表や実践発表を、ポスター展示及び参加者との質疑応答により行います。下記の内容について、パネル・資料・教材等の展示により紹介するとともに、直接、本研究所の担当者が説明します。

### 【ポスター発表】

研究班	テーマ
視覚班	視覚障害を伴う重複障害の児童生徒等の指導に関する研究～特別支援学校（視覚障害）における指導を中心に～（平成 29・30 年度基幹研究）
聴覚班	聴覚障害教育におけるセンター的機能充実にに関する研究 ～乳幼児を対象とした地域連携～
知的班	インクルーシブ教育場面における知的障害児の指導内容・方法の国際比較 ～フィンランド、スウェーデンと日本の比較から～（平成 28・29 年度共同研究）
肢体不自由班	小・中学校に在籍する肢体不自由児の指導に関する担当教員の課題意識
病弱班	精神疾患及び心身症のある児童生徒の教育的支援・配慮に関する研究～Co-MaMe（連続性のある多相的多階層支援）～（平成 29・30 年度基幹研究）
言語班	「ことばの教室」がインクルーシブ教育システム構築に果たす役割に関する実際研究～言語障害教育の専門性の活用～（平成 27・28 年度基幹研究）
自閉症班	個別の指導計画の活用状況と自立活動の指導に対する教師の意識 ～小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級に焦点を当てて～
発達・情緒班	発達障害等のある生徒の実態に応じた高等学校における通級による指導の在り方に関する研究～導入段階における課題の検討～（平成 28・29 年度基幹研究）
重複班	特別支援学校における盲ろう幼児児童生徒の実態調査報告 （平成 29・30 年度 研究班活動）

### 【展示】

#### ・「インクル DB」活用体験コーナー

インクル DB（インクルーシブ教育システム構築支援データベース）は、子供の実態から、どのような基礎的環境整備や合理的配慮が有効かについて、参考になる事例を紹介しています。また、研修会での事例検討にも活用できます。今回は、パソコンやタブレット型端末を使用して、インクル DB の活用を体験できるコーナーを設けました。

#### ・教育支援機器等展示室（i ライブラリー）所蔵の教育支援機器等

研究所の教育支援機器等展示室（i ライブラリー）所蔵の教材・教具や教育支援機器を展示します。実際に触れたり、操作したりする体験ができます。それらを通じて、子供達の学習や生活の指導に生かせる情報を提供します。

## 地域実践研究成果報告（14:10～16:10）

### <趣旨>

地域実践研究はインクルーシブ教育システム構築に向け、地域や学校が直面する課題を研究テーマに設定し、本研究所と地域が協働して課題の解決を目指すものです。

平成30年度、令和元年度は「教育相談、就学先決定に関する研究」、「インクルーシブ教育システムの理解啓発に関する研究」「多様な教育的ニーズに対応できる学校づくりに関する研究」「学校における合理的配慮及び基礎的環境整備に関する研究」の4つのテーマで研究を進めてきました。

参画地域は、平成30年度は9県、4市、令和元年度は、5県、7市、2町から、28名（短期派遣型、長期派遣型含む）の地域実践研究員に参画いただいています。

本報告では、その中から「小・中学校における特別支援教育に関する校内研修」と「高等学校の学校づくりにおける特別支援学校との連携」をテーマとした地域から、研究成果と今後の展望について発表していただきます。また、アドバイザーからは本報告を踏まえて、地域実践研究の有する意味やインクルーシブ教育システム推進に関する課題等についてお話しいただきます。

司会	横尾 俊	(国立特別支援教育総合研究所 インクルーシブ教育システム推進センター)
報告者	若月 雅子 氏	(埼玉県教育委員会 指導主事)
	三好 辰昌 氏	(埼玉県立騎西特別支援学校 主幹教諭)
	和久田 欣慈 氏	(静岡県教育委員会 指導班長)
	大石 恵理 氏	(静岡県立藤枝特別支援学校 教諭)
アドバイザー	原 広治 氏	(島根大学教授：地域実践研究アドバイザー)

---

## 令和元年度国立特別支援教育総合研究所セミナー要項

令和2年2月 発行

---

発行者 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

〒239-8585

神奈川県横須賀市野比5丁目1番1号

TEL 046-839-6803

FAX 046-839-6918

URL <https://www.nise.go.jp/nc/>

---

